

施食（施餓鬼）法要

「施食」（せじき）の法要は、本堂正面に特別に「施餓鬼棚」（施架・霊壇）を設け、中央に「三界萬霊」の位牌を飾り、導師は南面して法要を行います。普段の法要は導師は北面です。この法要は、この世界（三界）の一切の精霊（萬霊）に対して行われます。ご先祖様への年回



法要は、そのご先祖様に対する供養ですが、施食会は、世界の一切の精霊に対して供養をし、そしてその功德をご先祖様に対して回らし向ける、意義深い法要と同時に、私たち生きている者にも功德を与えてくれる有難い法要です。南面して行うことは特に餓鬼（報われない亡者）に対する配慮です。



施食会の時の「供養の詞」には、次の様に書かれています。

大恩教主本師釈迦牟尼佛、当山本尊東方藥師瑠璃光如来、南無觀世音菩薩、三世十方の諸仏の照鑑を乞い奉り大施食法会を営まんとす。

推れば盆供養は遠く二千五百有余年前、釈尊の十大弟子の一人に目蓮尊者あり。偶々餓鬼道に墮ち飢渴の苦しみにあえぐ亡母の姿を觀て、之を助けんとて世尊の尊き御教により数多くの僧を招きて供養を施し其の功德力により直ちに救われたりと。この因縁に始まり 伝えられわが国、聖武天皇の御代、天平五年宮中に於いて孟蘭盆会を勤められ給う以来、実に千二百三十余年の久しきに及び今日に至りていよいよ盛んなり。

更に焰口餓鬼の言を受けたる阿難尊者は、世尊より加持飲食陀羅尼の秘呪を授けられ之を唱えて直ちに無上の菩提を成就し給える 施食会の因縁と共に

わが曹洞宗はもとより広く佛家の大法要にして祖先の霊、無縁の亡霊に供養し感謝報恩の誠を捧げまつる 真情はいとも美しく尊きものと言うべし。

本日堂内には大小の幢幡風に翻り緑いろ濃き竹の葉も清らかにつつしみて霊壇を設けて明灯を点じ百味五果の妙供を供えて香華を献じ、隣峰諸山の尊宿を拜請し、三寶に供養し奉ると共に当山亡僧法界亡僧伽等各々品位、当山檀信徒結縁初盆諸霊位、並びに各家先祖代々の先亡諸霊 法界含識、校区各戦没殉難の諸精霊、当山霊園の各家および合祀の先祖代々の霊位、当山本堂修復、庫裏・弘法堂新築、仏器・法器寄付者各家先祖代々諸精霊、世界の天変地変災害殉難、特に東日本大震災物故者ならびに自然災害・豪雨殉難の諸霊位等を迎え併せて、有縁無縁の三界の萬霊十方至聖等に回向して菩提を證せしめんものなり。

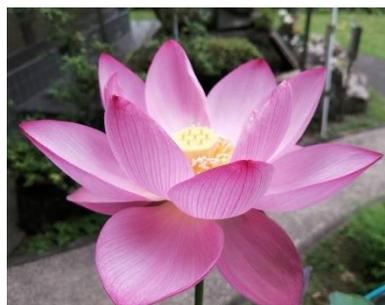
冀くは各霊位、悉く甘露の法門に入りて普く法食の二施を受け速やかに仏道を成就せんことを。

この詞書きにありますように前半は、「盂蘭盆経」(うらぼんきょう) というお経に書かれたお釈迦様の十大弟子の一人である「目連(もくれん)尊者」の盂蘭盆についてのお話しであり、後半は『救拔焰口餓鬼陀羅尼経』をいうお経に書かれた十大弟子の一人である阿難(あなん)尊者の施食会(施餓鬼会)お話しです。

それぞれ由来が異なるお話しですが、日本ではこの二つの話が混同され、どちらもご先祖への供養として一緒に行われるようになりました。つまり盂蘭盆会・施食(施餓鬼)会とも、ご先祖様だけでなく、すべての霊を供養し、自分自身の健康や幸せを願う法要です。

前半の『盂蘭盆経』(うらぼんきょう) というお経に、次のように書かれています。

お釈迦様の弟子で神通第一といわれる目連(もくれん)尊者が、神通力で亡き母を探したところ、餓鬼道に堕ち、飢えて逆さ吊りにされて苦しんでいました。目連尊者は神通力で食べ物や飲み物を施そうとしましたが、たちまち燃えてしまい母は口にすることができません。お釈迦様に母を救う方法を尋ねたところ、「あなたの母は、生前人に施さず自分勝手だったので餓鬼道に落ちたのだ。7月15日に、雨季の修行を終える僧侶にご馳走を用意してお経を唱え、心から供養しなさい。」と言われました。木蓮尊者がその通りにすると、母は餓鬼の苦しみから救わ



れたというお話しです。これが盂蘭盆会の始まりです。広く魂祭（たままつり）、精霊会（しょうりょうえ）、お盆などといわれる。盂蘭盆はサンスクリット語でウランバナの音写とされ、倒懸（さかさづり）の意味です。

後半は、『救拔焰口餓鬼陀羅尼經』（くばつえんくがきだらにきょう）というお経にあります。お釈迦様の十大弟子の一人である阿難尊者が一人で瞑想している時、口から火を吐く恐ろしい餓鬼が現れ、「お前は三日後に死んで、我々と同じ恐ろしい餓鬼道に落ちる」と言いました。驚いた阿難尊者は助かる方法はないかと餓鬼にたずねました。すると餓鬼は「助かる方法はただ一つ、すべての飢えたる餓鬼に飲食を施し供養しなさい。」と答えました。しかし、餓鬼の数は多く、そのすべてに供養することなど無理なことでした。阿難尊者は、お釈迦様に教えを乞うことにしました。お釈迦様は「阿難よ、恐れることはない。一鉢の食物を供え、無量威徳自在光明加持飲食陀羅尼を唱えて加持すれば、その食べ物は無量の食物となり、一切の餓鬼は空腹を満たされ、その功德は無量無数の苦難のものを救い、施主の功德も大いなるものがあると」と説かれました。

阿難尊者はお釈迦様の教えに従い「施食会」を修したところ、直ちに無上の菩提を成就し給えることができたとされます。これが「施食（施餓鬼）会」の起源となりました。施餓鬼棚には、必ず「水の子」といって「なすきウリ」の小片をお供えし、陀羅尼を唱えて、外に放り投げる教えがあります。また、ミソハギの小枝で水を手向ける教えもあります。

林陽寺では、毎年8月7日午前8時より「山門大施食会」として行っております。護持会や信者の方の皆様に7月初旬にご案内のチラシをお配し、お塔婆のお申し込みをいただき、当日を迎えます。よろしく願いいたします。

